

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	医療法人社団 高台病院 グループホームはしどい	評価実施年月日	平成19年12月15日～平成20年1月31日
評価実施構成員氏名	北川 順子 江森 由美子 松村 伸介 袴田 直子 川口 浩幸 渡辺 睦子 永尾 美奈		
記録者氏名	北川 順子	記録年月日	平成20年2月13日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	はしどい独自の「新しいわが家」を目指すことを理念とし、地域の行事に参加するなどして、地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えており、さらに理念は見易い所に明示して、地域の人達との中で、楽しみを持ちながら暮らしていける様に支えている。又、理念は、見易い所に明示してある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関や各スタッフルームに理念が掲示してあり、又、ネームプレート裏にも明記し日々確認が出来、理念の実践に取り組んでいる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	地域の商店への買い物や銭湯などを利用したり、また運営推進委員会等を通して理解をして頂くよう取り組んでいる。 (パンフレット・はしどい便り・行事予定表など)		
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	外出・散歩など含め近隣の方々へ職員が率先して挨拶を行い、交流を深めている。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の銭湯・スーパーなど利用し交流を図っており、又、町内会の行事へ参加して地元の人々と交流することに努めている。		
6		事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	常勤の看護師による勉強会を運営推進委員会等で実施しており、認知症についてのプリント配布や救急蘇生法の講習をしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>要改善の項目等については、職員全員で話し合い、直ちに取り組んでいる。</p> <p>(例)カレンダーの大きさ(手作り)、記録の書き方、室温計の高さの変更等々</p>		
8	5	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	<p>会議において、グループホームの説明等々行い、年間行事予定表の配布をした際、ご家族様よりの意見を活かし、行事表を作成し、サービス向上に活かしている。</p>		
9	6	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>情報の交流を行いながらサービスの向上につながるよう取り組んでいる。又、札幌市よりライラックの苗木を頂き、ご利用者と一緒に植樹している。</p>		
10		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	<p>必要な人に対して支援するように努めており、実際に制度を利用している入居者様もあり、支援している。</p>		
11		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止に努めており、研修などでも虐待防止関連法について会議等で学んでいる。日々の言葉使いに配慮し、もし入居されている方が“自分の親だったら”“自分だったら”とスタッフ全員が自分に問い返ししながら、利用者のケアにあたっている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
12		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時、重要事項説明書など説明を十分に行い、理解・納得を図っている。</p>		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情については、速やかに施設長に報告し、緊急会議を開き、職員間で話し合いを行い、改善し、結果をご家族に報告し、運営に反映させている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	定期にははしどい便りを送付。また毎月近況をお手紙にてお知らせし、写真等を同封している。季刊であるはしどい便りも送付し、受診や特変のあった場合は必ずご家族様にお電話で報告している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	契約時に、外部の苦情窓口等(公的窓口)へ直接相談出来ることを説明している。又「皆様の声」という箱を玄関に設置し、ご家族様にご説明して、意見があった場合には直ちに臨時会議を開き、運営に反映させている。		
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	はしどい会議において、意見や提案が出来る機会があり、反映させている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	柔軟な対応が出来ており、適切な勤務体制がとれている。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	はしどいは1つであるという考えのもと、常に各フロアの職員は他のフロアのことにも把握している。行事も各フロア合同でするため、他のフロア職員にも利用者は馴染みの職員が多くなり、安心して支援を受けられる様になっている。又、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
19	10	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>札幌市や道の研修など積極的に参加する様に働きかけ、順次研修を受けれるように確保して働きながらトレーニングしていく事を進めている。</p>		
20	11	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>札幌市管理者連絡会議、各区の集まり・札幌市の研修などに出席し、同業者と交流する機会を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21		<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>親睦会等でストレスの解消を図ったり、夏休みをとったり、業務上の悩みはその都度施設長・管理者に助言を受け、職員間で共有できるものは共有している。</p>		
22		<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の個々の努力や実績・勤務状況を踏まえて更なるステップアップを促し、それを達成した時は会議等で発表し、職員間で喜びを共有するように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>職員からの声かけや会話の中から現在の状況や心境を傾聴するよう日頃より努めている。</p>		
24		<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>ご家族様の面会時などに、不安なことや希望する事などよく聞く機会を作るよう努力している。</p>		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25		初期対応の見極めと支援  相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	施設長をはじめ、職員と会議等で十分に話し合い、対応に努めている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用  本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ご家族様よりご本人の情報を聞き取りし、相談しながら馴染めるよう工夫をしている。希望される日に見学が出来、又、体験入居等も行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	入居されている方々の経験されて来た事や得意な事、興味ある事を知り、レクリエーションの中で提供したり、一緒に掃除・買い物・食事の準備を行い、助け合ったり協力し合う場面作りをしている。		
28		本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	来訪時には生活の様子を伝えたり、毎月のお手紙で近況報告し、また敬老会などにも参加して頂き、ご家族様との交流を深めて頂く機会を設けている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族様の来訪時や、入居者様との外出・外泊時の準備、また電話の取り次ぎなど対応し、よりよい関係が築いていけるように支援している。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様のご協力を得ながら、お手紙や電話などにより、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	円滑な関係作りが出来るような場面作りや、一人ひとりが孤立しないように仲介に入ったりなどして対応し、努めている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	お便りなどを出したりして、関係を絶ち切らないように努めている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は"もし自分の親だったら"といつも考え、ご本人の希望や思いを汲みとり、ご本人の意向に近づけるよう検討している。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人やご家族様に今までの生活歴や環境をお聞きし、1冊にファイリングし把握できるよう努めている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	担当スタッフがそれぞれカンファレンスの中で意見交換を行ったり、申し送り等で情報を共有し、その方の現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人・ご家族様の希望を基に職員全員がアセスメントを共有し、カンファレンスの中からの意見を介護計画に反映出来るよう作成し努めている。(センター方式実施)		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、現状に即した介護計画を作成出来るよう担当者と職員の話し合いを行い、ご家族様にも現状を知って頂き、新しい計画を作成している。又、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門の適切な監理のもとに、現状の即した新しい計画を作成している。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の支援ノート・生活記録・スタッフ申し送りノートに日々の様子や気づきを記入し、情報を共有しながら見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。			ご本人やご家族様の状況、その時の要望に応じて、ショートステイなども検討中である。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	消防署による救命救急の処置・対応の研修。避難訓練(防災)を実施や、ホーム内の看護師による救急・処置等の勉強会の実施(講習会)などを通して、本人の意向や必要性に応じて、各機関等と協力しながら支援している。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ケアマネジャーは道や市の主催する研修を受け、他の地域のケアマネジャーと交流し、意見交換や情報を施設長に報告している。訪問理美容のサービスを利用したり、訪問マッサージ師を利用されている方が居る。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターのケアマネジャーの方に参加していただいております、お話をいただいております。		



自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	18	かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	高台病院が母体で、医師との連絡・相談がスムーズで、ホーム内に常勤の看護師も居り、日常の相談や健康管理の支援をしている。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	母体が医療機関(高台病院)の為、専門医は確保されており、毎月個々の状況を報告したり、必要な時には主治医からの指示や受診も受けられる様に支援している。		
45		看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体の高台病院との連携もとれており、職員に常勤の看護師が居り、入居者様の日常の様子も知っている為、状態変化に応じた処置や相談も含め健康管理の支援をしている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	医療機関と連携を取り、ご家族様とも連絡を取り、早期退院に向け支援している。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合は、出来るだけ早い段階からご家族様やかかりつけの主治医と十分に話し合い、全員で方針を共有しており、施設紹介等の支援をしている。		現在は終末期については対応していないが、検討していきたい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医師とともにチームとしての支援に取り組み、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49		住替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	移転先の関係者やご家族様と連絡を取り合い、情報の交換や提供を行い支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	入居者様に対する言葉がけも依頼型や”～ませんか”等の疑問型で接する様に日頃より心掛けている。各個室は鍵がかけられるようになっており、プライバシーは守られている。記録等の個人情報の取扱いをしていない。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	入居者様のペースに合わせ、ゆっくり・はっきり・笑顔で自己決定出来る様な言葉がけを行い、希望や意志を尊重し、思いに添うように支援をしている。		
52	21	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日の状態やペース・希望にあわせ選択できる場面作りをして、柔軟に対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	季節感・個性を大切にしながら、ご本人と相談し洋服を決めて頂くなど支援している。訪問理美容があり、希望の髪型にしてもらえる。また、馴染みの美容室へ行かれる方もいる。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食材選び(買い物)・調理の準備・盛り付け・配膳・食器洗い等々一緒に一人ひとり出来ることを自発的に、または声がけを行い支援をしている。馴染みの食器を使用している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日頃よりご本人の好きな物について聞き取りし、おやつ時や水分補給の時などや希望が叶うよう支援している。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	職員が一人ひとりの排泄パターンを共有して居り、声かけや誘導などの支援をしている。その際はプライドやプライバシーに配慮した言葉遣いや声かけをしている。		
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴方法・温度・回数・順番など身体状況に配慮しながら希望に添い支援している。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様の睡眠のパターンを把握し、一人ひとりに合わせた安眠や休息の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの出来る事・興味や得意な事などを午前・午後のレクリエーションに取り入れたり、役割作りや協力し合える場面作りなどで、気分転換の支援をしている。 (買い物・畑作り・掃除・盛り付け・配膳・食器洗い拭き等々)		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	事務の金庫にて保管しており、必要な時にいつでも使用出来るように支援している。希望される方は居室内で所持したり出来るように支援している。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	食材選びの買い物同行や天気の良い日には散歩を行ったり、ホームの畑での草取りや収穫をしている。 ご家族様との外出の支援をしている。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食や各花見を予定し行っていて、一人ひとりの希望が叶うように努めている。 ご家族様の協力を得て外出の支援をしている。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも自由に電話することが出来、居室に電話を設置されて居る入居者様も居る。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来訪して頂く事が出来て、居室やリビング等で気軽に居心地よく過ごして頂ける様に支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	運営者及びすべての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束はどんな状況であってもしない介護ケアに取り組んでいる。言葉遣い・声かけ・態度にも注意を払っている。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関・エレベーター・階段の出入り口等にセンサーが付いて居り、鍵をかけないケアに取り組んでいる。居室についても職員の都合で施錠する事は無い。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67		<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	職員間で連携を取り、ご利用者の所在や様子を把握し、夜勤者は22時・3時の巡回時に様子確認し、安全に配慮している。		
68		<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	刃物や洗剤など各担当者が責任を持ち、使用後に施錠出来る棚に保管している。		
69		<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	事故のあった場合は、事故報告やひやりハット報告を提出し、会議等で検討し事故の原因(ひやり)を探り再発防止に努めている。		
70		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	緊急時のマニュアルが備え付けられて居り、職員の看護師による応急手当等の研修を行っている。		
71	27	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	年2回の防災訓練に入居者様も参加して頂き実施し、職員は消火器の使い方などの訓練も行っている。		
72		<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	ご家族様と連絡を取り合い、現在の状況を説明し、今後起こりうるリスクについての対応を話し合っている。		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常動作・話し方などの気づきや特変があった場合は施設長へ連絡し、看護師からの支持をもらい、申し送りや個別支援ノートに記入し職員で情報を共有し対応している。		
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居されている方々の服用されている薬について各職員が理解し変化がある場合には直ちに報告し指示を受ける体制がとられている。 薬の管理はスタッフがしており、2人チェック体制になっていて、ご利用者が服用時も職員がご利用者と薬袋に書かれている名前を声に出して確認している。		
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防のため毎身体操をし、楽しく身体を動かすレクリエーションを工夫している。利用者の排便の有無は必ず把握するようにしている。水分不足の利用者には食間にも声がけて摂取をお願いしている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアを実施。その方々の状況に合わせて対応している。義歯洗浄等の支援も行っている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	母体の栄養士が献立を作成し、ご利用者の方の好みやご希望も取り入れて、カロリーや栄養のバランスに配慮している。水分摂取量や食事摂取量を記録し確保出来るように声がけの支援をしている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染マニュアルが備え付けられて居り、予防や対応の取り決めがあり、職員・入居者様もうがい・手洗いを実施している。 インフルエンザの予防接種はスタッフ全員がしている。		

自己評価項目	外部評価項目	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>食材は毎日買い出し、調理品を出したままにしない様になっている。</p> <p>台所調理用具等漂白・消毒実施し調理者の清潔衛生を徹底している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関まわりに観葉植物や花が置かれ家庭的で段差の無い玄関フロアになっている。</p> <p>玄関周りはロードヒーティングになっており、冬場は雪で滑らないように配慮されている。</p> <p>裏庭に菜園を造るなど親しみやすい雰囲気作りをしている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>リビング・居室は自然採光が入り、いつも明るい季節に合った装飾を行い、リクリエーションでの作品なども飾るなどリラックスができるように工夫している。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングのソファでテレビを見たり、気の合う同志で会話されたり、窓からの景色を見たり、居室で休まれたりと自由に過ごせるようになっている。</p>		
83	30	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人の使い馴れた生活用品が持ち込まれており、思い出の写真なども置かれたりと工夫され、安心して過ごせる場所となっている。</p>		
84		<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>換気がこまめに行われて居り、臭気も無く、室温調整も適切に行っている。冬場は乾燥しないように加湿器を使用している。</p>		

自己 評価 項目	外部 評価 項目	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリーになって居り、廊下・トイレ・お風呂・階段等に手すりが設置され、自立した生活が送れるように工夫している。又、廊下や居室は滑りにくいように絨毯張りになっている。</p>		
86		<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>リビングに手作りの大きなカレンダーがあり、目線に時計なども設置している。自分の部屋にはわかるように表札や花の写真もあり、目印になっている。</p>		
87		<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>施設の裏に畑があり、入居者の皆様と菜園作りを行い、育て、収穫したり、ベンチに座ってご利用者がゆっくり出来る様になっている。</p>		



. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所の番号の左横に 印をつけること)
		印欄
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者様が毎日楽しく穏やかに、ご健康で暮らしていただける様、本当のご家族のように思い、接しさせていただいております。

はしどいの理念の中にあるように、“自分の親だったら” “自分の祖父母だったら” といつも思い、入居者様と接することが大切なことであり、職員全員が毎日入居者様と共感し、受容しながら実践しています。

お食事は心や体を健康でいきいきさせるすべての基になる事ですので、食材は吟味しており、彩りよく盛りつけられた手作りの美味しいお食事をお出ししています。

職員の人柄は皆本当に優しく、“はしどいの宝” と職員にいつも話しており、仕事に取り組む姿勢が非常に前向きで、資格などを取って勉強しています。